

カリタス女子中学校 第二回入学試験

二〇一七年二月三日 実施

# 国語問題

(五〇分)

\*答えはすべて解答用紙に記入すること。

\*字数の指定がある場合は、句読点をふくむこととします。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。※のついた言葉には、文章の最後に注をつけてあります。

心理学者・東洋<sup>あずまひろし</sup>たちは、日米母子研究の中で、子どもが3歳半<sup>さい</sup>のときの母親の「しつけ方略<sup>※はつりやく</sup>」の調査を行っている。子どもがよくない行動をしている場面を設定し、自分の子どもが今<sup>A</sup>そのようなことをしているとしたり、何と言うかを答えさせるといものである。

【1】、「夕食に出された<sup>①</sup>ヤサイを嫌<sup>きら</sup>いだと言って食べようとしない」「薬を飲もうとしない」「スーパーマーケットで駆け回り他の買い物客の迷惑<sup>めいわく</sup>になっっている」「友だちに<sup>②</sup>ツミ木をぶつけている」などの場面が設定された。

普段<sup>ふだん</sup>B やっているように答えることを求められた母親たちは、きわめて臨場感<sup>※</sup>のある反応を示した。その際に、母親が説得<sup>せとく</sup>するの持ち出す根拠<sup>※んきよ</sup>を、「親としての権威<sup>※けんい</sup>」「規則」「気持ち」「結果」の四つに分類した。

「親としての権威」とは、ただ食べなさいと繰り返したり、「食べないとダメでしょ」「言うことを聞きなさい」と言うなど、親の命令<sup>めいれい</sup>だから従<sup>したが</sup>いなさいというニュアンス<sup>※</sup>のものである。

「規則」とは、「残さないでちゃんと食べることになってるでしょ」「つみ木は投げるものじゃないでしょ」などと決まり事<sup>けまりこと</sup>をもち出すものである。

「気持ち」とは、「せっかくなかったのにお母さん、悲しいな」「ぶつけられたお友だちは痛いでしょ、○○ちゃんがやられたらどう思う?」などと相手の気持ちを想像<sup>さくご</sup>させるものである。

「結果」とは、「ちゃんと食べないと大きくなれないよ」「やさいを食べないと病気になるって遊ばなくなるよ」などと、言うことを聞かなかった場合に生<sup>う</sup>じる<sup>③</sup>好ましくない結果<sup>④</sup>をもち出すものである。

子どもに言うことを聞かせるための根拠  
一日米比較 (%)

	日本	アメリカ
親としての権威	18	50
規則	15	16
気持ち	22	7
結果	37	23
その他	8	4

出典／東洋『日本人のしつけと教育』

— 発達の日米比較にもとづいて — 東京大学出版会

この四つのカテゴリー<sup>※</sup>を用いて母親の反応を分類したところ、日本の母親とアメリカの母親はきわめて対照的な反応を示すことがわかった。

アメリカの母親は、「ぐずぐず言わずに食べなさい」などと **C** に訴えて、理由はわからなくてもとにかく親の言うようにやらせようという反応が50%と圧倒的に多かった。日本では、**C** に訴える反応はわずか18%にすぎなかった。

日本の母親では、言うことを聞かないとどういう望ましくない結果になるかをわからせようとする、いわば「結果」に目を向けさせようとする反応が37%と最も多く、それに次いで相手の「気持ち」に目を向けさせる反応が22%となっていた。

東<sup>あずま</sup>は、四つのカテゴリーのうち、「規則」は権威的なもの、「気持ち」は一種の結果と見なせるとしている。そうすると、子どもがよくない行動をしているとき、規則を含めて「権威」をもち出し行動を改めさせようとする親は、日本では **D** %しかいないのに対して、アメリカでは **E** %と日本の2倍になる。一方、相手の気持ちも含めて好ましくない行動の「結果」に目を向けさせることで行動を改めさせようとする親は、アメリカでは30%しかいないのに、日本では59%とアメリカの2倍になる。

【2】、日本とアメリカではまったく対照的なしつけが行われていることがわかる。子どものしつけにおいて、アメリカでは「とにかくこうしなさい」と親としての権威を振りかざして言うことを聞かせるしつけ方略が主として取られている。

それに対して、日本の母親は、**F** しつけ方略を取ることが多く、「こうしなさい」などと命令的な言い方をすることは少ない。

東たちは、同じ調査研究の中で、「それでも子どもが言うことを聞かなかつたら何と言うか」と尋ね、さらにその反応に対しても「それでも言うことを聞かなかつたら」と重ねて尋ねていくというやり方を取り、母親の反応を追ってみた。

すると、アメリカの母親は、「Eat it (食べなさい)」「You must eat it (食べなければだめ)」「EAT IT, Please (食・べ・る・のっ)」というように、だんだん強制力を強めていく。

それに対して、日本の母親は、**G** 「明日は食べるね」というように、だんだん後退していく。

「いけないことをしているのをやめさせるというのは、基本的に対立の場面である。アメリカの母親は、これを『権威と責任を持つ者、ボス』と『従うべき者』との関係と定式化して、『誰がボスカ』をはつきりさせなければならぬ場面とみなし、権威の側が譲ったり弱みを見せたりすると、しつげに必要な権威関係が崩壊してしまうと見る。実際アメリカの育児書では、一貫的 (consistent) であれ、わがままに対して譲歩するな、ということが強調されている。

【3】日本の母親は、子どもは『いい子』なのだというタテマエをとるので、対立は本来あるべからざることで、いけないことをしているのは事態をよくわかっているからだという仮説をとり、結果を説明したり人の気持ちに言及したりして『わからせよう』とする。わかればいけないことはしないはずだ、と考えているのだと解することができよう」(東洋『日本人のしつけと教育―発達の日米比較にもとづいて』東京大学出版会)

「わからせようとしてもわかってくれなかったら、<sup>H</sup>条件を緩めて妥協することで対決を回避しようとする。どうしてそのように対決を避けるのか。ひとつには、対決があらわにならば、その子が『よくない』と親が考えているというメッセージを伝えなければならない。これは『いい子アイデンティティ』を損なうかもしれないということになる。ギリギリまでそれを避けようとするのである」(同書)

自分たちの日常を振り返ると、たしかにその通りだなと思わされる。言うことを聞かない子に対して「お願いだから言うことを聞いてちょうだい」などと言ったりする。それでも言うことを聞かないと、徐々に譲歩するような提案をして、少しでも行動改善の方向に子どもの気持ち動くように促す。

これが私たち日本人の日常である。

〈榎本博明著『ディベートが苦手、だから日本人はすごい』(朝日新書)より。一部改変〉

### 〔語注〕

※ 方略……………はかりごと、計略。方策。

※ 臨場感……………実際にその現場にいるような感じ。

※ 根拠……………行動や考えのもとになる理由。

- ※ 権威……………他を押さえつけ従わせる、ずば抜けた威力。
- ※ ニュアンス……………ある言葉の持つ表面的な意味以外に感じられる微妙な意味。
- ※ カテゴリー……………物事を同じ性質を持つものとしてまとめる範囲。
- ※ 譲歩……………自分の意見・主張をおさえ、相手に従うこと。
- ※ タテマエ……………建前。おもてむきの基本的な方針・原則。
- ※ アイデンティティ……………ここでは「感覚、意識」といった意味。

問一 ① ヤサイ ② ツミ木 ③ 好ましく のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 A そのようなこと とは、どのようなことですか。文中からぬき出して書きなさい。

問三 【 1 】 ～ 【 3 】 にあてはまる言葉としてみっともふさわしいものを、次のア～キの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- |   |       |   |         |   |    |   |      |   |        |
|---|-------|---|---------|---|----|---|------|---|--------|
| ア | ひとつには | イ | こうしてみると | ウ | さて | エ | なぜなら | オ | これに対して |
| カ | たとえば  | キ | 最終的には   |   |    |   |      |   |        |

問四 B やっている とありますが、だれのどのような行動を指していますか。文中の言葉を使って答えなさい。

問五 表を参考にして、C にふさわしい言葉を書きなさい。

問六 表を参考にして、DとEに入る数字の組み合わせとしてもつともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 30と59      イ 22と44      ウ 4と8      エ 15と30      オ 33と66

問七

F

にあてはまるものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「残さないでちゃんと食べることになってるでしょ」と暗示的な言い方をしたり、「食べないと大きくなれないよ」と権威的けんいな言い方をする

イ 「残さないでちゃんと食べることになってるでしょ」と暗示的な言い方をしたり、「つみ木は投げるものじゃないでしょ」などと決まり事に気づかせようとする

ウ 「食べないとダメでしょ」と権威的けんいな言い方をしたり、「せっかくなつくつたのにお母さん、悲しいな」と決まり事に目を向けさせようとする

エ 「食べないと大きくなれないよ」と暗示的な言い方をしたり、「ぶつけられたお友だちは痛いでしょ」と相手の気持ちに目を向けさせる

オ 「食べないと大きくなれないよ」と権威的けんいな言い方をしたり、「ぶつけられたお友だちは痛いでしょ」と相手の気持ちに目を向けさせる

問八

G

に合うように次のア～ウの順序を並べ替ならえ、記号で答えなさい。

ア 「少しでいいからね」

イ 「食べなさい」

ウ 「食べてちょうだいよ」

問九

H 条件を緩ゆるめて妥協たきようすることで対決を回避かいひしようとする      とありますが、こうまでして日本の母親がその子が『よくない』というメッセージを伝えないようにしているのはなぜですか。「タテマエ」という言葉を入れて六十字以内で答えなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。※のついた言葉には、文章の最後に注をつけてあります。

中学校に入学した「私（さと子）」はなきなた部※に入部した。しかしなきなた部の活動は、毎回、ランニングと素振りすぶだけで、そのことに不満を持った「ゆきちゃん」はついに、走るのはいやだと部長の「朝子さん」に言ってしまふ。部長にさからった罰ばつとして校庭を追加で走らされた「ゆきちゃん」は、その後道場にもどってこなかった。

その翌日よくじつの土曜日、「私」と「ゆきちゃん」は「ゆきちゃん」のお父さん（ゆきパパ）の車で買い物に行き、その帰りに「ゆきちゃん」の家で昼食をとることになった。

ゆきちゃんの部屋は、二年前と変わらず全体的にピンク色をしていた。

「ゆきちゃん、合唱部じゃない気がするんだけど」

朝のことを切り出してみた。ピンクのベッドの上でぶすつとするゆきちゃんはワンピースを着せられた不機嫌ふきげんな人形にんぎょうのようだった。

「いちおうお父さんには、<sup>A</sup>うそつかないほうがいいんじゃないの」

よけいなお世話かもしれないけど、私はそう言った。家族にうそをつくの、すごくよくないことだと思うから。

ゆきちゃんが何も言わないので、「お父さん、かわいそうじゃん」と私は言った。すると彼女かのじよは口を開いた。

<sup>B</sup>「パパ、バカなんだもん」

なんてひどいことを言うんだ、ゆきちゃんは。

「うち、お金たくさんあるから頼めばなんでも買ってくれる」

ゆきちゃんはさらりとすごいことを言った。

「けどそんなの全然うれしくない」

私だったらうれいけど、と思ったけど、生まれてからずっとそうだったらそれも飽きるあきるかもしれない。

「わたし、朝子さんのせいで疲れ切つかって毎日 1 して帰かえってるし、足にマメもできてる」

ゆきちゃんは靴下くつしたを脱ぬいで足のマメを見せた。私と同じところにできていた。

「だけどパパは合唱部だつて信じこんでる。ママも同じだし。けがをすると危ないから体育でドッジボールのときは休みなさいとか、秋のマラソン大会も無理するのはよくないから休みなさいとか言うくせに。なのに合唱部じゃないことには気がつかないんだもん」

しんじらんない、とゆきちゃんは下くちびるだけ出っ張ったあんまりかわいくない顔で言った。

「そっか。ゆきちゃん小学校のとき、体育ほんとは見学したくなかったんだね」

こういうときは相手に<sup>①</sup>ドウチョウしてあげるのがいいのだ。とこのまえ見たテレビで心理学の先生が言っていたからそうした。「べつに見学したいけど」と彼女は言った。なんだよ、と思った。見学なんかほんとはしたくないのにパパが言うから……という話じゃないのか。「ドッジボールはこわいし、マラソンは疲れるからやだもん」

やっぱりゆきちゃんだなど思った。だけどゆきちゃんは「でもそんな理由で見学するのってへんじゃん」と言った。それから高そうなお菓子<sup>かし</sup>を口にほうりこんで続けた。

「みんなに『なんで?』って目で見られるし。だけど、パパの言うとおりにしてたら休むのが当たり前になっちゃった」  
彼女のことだから「わたし体力ないからパパの言うとおりに体育を見学するのは当然」とでも思っているんだと思つてたけど、そういうわけでもなかったみたいだ。

「ゆきちゃん意外にそういうの気にするんだね」

**C** ゆきちゃんは、なんかこわい顔をした。下くちびるが出っ張りすぎて深海魚っぽい。

パパの言うとおりにしていたせいで根性なしになったことを、彼女は彼女なりに気にしているのだということはわかった。ゆきちゃんがなぎなた部に入ったのには、そういうことが少なからず関係しているのだ。まあ、入ったら入ったで根性ないと言われてふてくされて追加で走らされた<sup>②</sup>。拳<sup>こぶし</sup>句<sup>くご</sup>勝手に帰ったりしてるけど。しかしたしかにゆきパパもゆきママもよく気がつかずに合唱部だと思ひこんでるな、とは私も思う。

けど。

帰りの車に乗るとき、ゆきちゃんがトイレに行くと言って **2** しているあいだにゆきパパが私に言った。

「いまだきの合唱部って、けっこう激しいんだね」

「……え」



「最近ゆきちゃんのローファーが急にしわだらけになったから」

ゆきパパはなんだか悪そうな笑みを浮かべていた。ちよつと焦った。D たぶん、気づいてる。

「なに話してるの」

ゆきちゃんが戻ってきた。

「いい靴が買えてよかったねって話してた」

「あっそ」

ゆきちゃんは私の手を引つ張って、さつさと赤くてかわいくてイギリス製で高い車の後部座席に乗りこんだ。

家まで送ってもらって、降りるときにゆきパパが「ゆきちゃんをよろしくね」と言った。「パパはだまって。じゃあね、さと子」

私は手を振った。

〈 中 略 〉

そして月曜日。

放課後の更衣室にゆきちゃんの姿はなかった。

あれ、おかしい。こんなはずじゃないのに。土曜日、なぎなた部のことは直接話さなかったけど、絶対ゆきちゃん来るはずなのに。

ゆきちゃんがないことについてだれかが言ったわけじゃないけど、私は「土曜日にいっしょにランニングシューズ買いに行ったんです。だから、絶対今日も来るはずなんです」と言いたくなくなった。でも、そんなことをいきなり言ったらなおさらゆきちゃんの不在に大きな意味が与えられてしまうような気がしたから、言わなかった。

「それじゃ、今日もランニングからです。外行きますよー」

朝子さんが淡々とした感じで言っ、私たちは **3** と更衣室から出た。岩山君も男子更衣室から出てきた。朝子さんには、いきなり部員がひとり減ったことをわざと意識しないようにしているという雰囲気すらなかった。金曜日に勝手に帰ったことで、もうゆきちゃんのこととは切り捨ててしまったのだろうか。だとしたら、あまりにも冷たい。

一年生にはあきらかにそわそわした感じがあった。それはゆきちゃんが来なかったことか、それとも朝子さんの冷酷さにおどろいてか、

どっちかはわからない。たぶん両方だ。

「ゆきちゃん絶対来ると思うんですけど、もうちょっと待ってみませんか？」

道場と体育館をつなぐ通路を歩きながら、私は思わずそう言っていた。

「もう部活の時間はじまつてるもん。なんかの③ツゴウで遅れてるなら、そのうち合流してくるでしょ。遅れたひといちいち待ってらんないよ。行きます」

やっぱり朝子さんは冷たい。

私たちは昇降口へ向かった。

私は買ったばかりの真っ白なシューズを履いて、しっかりとくつひもをしめた。くつずれしないように。ゆきちゃんはあの靴を、今日から履いて走るために買ったんじゃないのか。あんなに真剣に選んでたのに。だけど「やっぱりめんどくさくなった」と言っただけで、部活を放棄するゆきちゃんの姿もリアルに思い描けてしまう。

私は下を向いて 4 と外に出た。

井川さんが私の背中を軽く叩いて「行こう」と言った。

歩きながら昇降口前の④ハイイロのアスファルトの独特の質感を目で追っていると、いま私が履いている靴の、色違いがとつぜんあらわれた。

「みんな着替えるの遅くないですか？ わたし、もうストレッチ終わっちゃいました」

細くて白くて、蹴ったら折れそうな脚の先で、新品のランニングシューズが白く光っている。

ゆきちゃんだった。

「もしかして今日は走らないのかなって不安になっちゃいました」

「ゆきちゃん、そういう生意気はいちばん前を走れるようになってから言いなさい」

朝子さんがそう言って、ニヤリという感じに笑った。へ 中 略 へ

「先週ちゃんと走れなかったのは、靴がいけなかったんです」

たぶん体力がなくてそのうえ根性もないのが走れない原因の九割をしめているけど、朝子さんは「ほう。靴がいけなかったのか」とうな

ずいていた。

ゆきちゃんが合流して六人になったところで、私たちは走り出した。

そんなにすぐに体力がつかはすはないからゆきちゃんは今日もお尻を叩かれてヒーヒー言いながら走ってたけど、はじめて周囲遅れにならなかった。道場に戻って朝子さんにビシバシと素振りをさせられ、チャイムが鳴って一列に並んで礼をし、更衣室に戻った。

「最初ないからも来ないのかと思っただけじゃあ」

着替えながらゆきちゃんにそう言うのと「さと子ちゃん、意外に抜けてますね」と朝子さんに横から言われた。

「え、なんでですか」

「私、ゆきちゃんが来ること知ってたもーん」

「え」

「だって更衣室にゆきちゃんのかばんと制服あったもん。だから着替えてもう外に行ったんだって最初からわかってました。ねー、ゆきちゃん」

「そうですね。ちょっと朝子さんがこわいくらいでやめません、わたしは」

ゆきちゃんがないことと朝子さんのあまりにもドライな態度にあせりすぎて、一年生はだれも <sup>E</sup> そのことに気がつかなかったみたいだった。

〈小嶋陽太郎著『おとめの流儀。』（ポプラ社）より。一部改変〉

### 〔語注〕

※ なぎなた …………… 本来は長い柄の先に幅の広い反った刃をつけた武器だが、競技としての「なぎなた」は、先が少し反った棒（中学生用は二メートル十センチから二メートル二十五センチ）を持ち、防具を着けて剣道のように打ち合う武道のこと。

※ ローファー …………… 靴ひものない革靴の一種。

問一 ①ドウチヨウ ②挙句 ③ツゴウ ④ハイイロ のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 ① 1 ② 4 にあてはまる言葉としてふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。  
ただし、同じ記号は一度ずつしか用いないこととします。

ア もたもた      イ とぼとぼ      ウ よろよろ      エ ぞろぞろ      オ はらはら

問三 A ①うそ とありますが、「ゆきちゃん」はなぜ家族に「うそ」をついたのですか。説明しなさい。

問四 B ①「パパ、バカなんだもん」 とありますが、「ゆきちゃん」はパパの、「ゆきちゃん」に対する接し方のどこに不満を持っているのですか。説明しなさい。

問五 C ①ゆきちゃんは、なんかこわい顔をした。 とありますが、なぜそんな顔をしたのですか。理由としてもっともふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 体力がないから体育を見学するのは当たり前なのに、「さと子」が非難したことを不満に思っているから。

イ ほんとは体育を見学したくなかったのに、親のせいで見学させられてきたことを不満に思っているから。

ウ 「朝子さん」のせいで毎日疲れて帰ってくるし、足にマメまでできていることを不満に思っているから。

エ 「なんで？」という目で見られた時に、「さと子」がかばってくれなかったことを不満に思っているから。

オ 幼なじみの「さと子」が、いまだに自分の性格をわかってくれないことを不満に思っているから。

問六 D ①たぶん、気づいてる。 とありますが、「ゆきパパ」の言葉から「ゆきパパ」が何に「気づいてる」と「私」は思ったのですか。答えなさい。

問七 E そのこととありますが、何を指しているのですか。答えなさい。

問八 本文の内容に合わないものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「さと子」と「ゆきちゃん」は、なぎなた部の活動でランニングをするために、色違いのシューズを買った。

イ 「ゆきちゃん」はパパやママからとても甘やかされていて、「さと子」はそれを少しうらやましく思っている。

ウ 「さと子」と「ゆきちゃん」は、「朝子さん」をこわがりながらも、なんとか彼女のやり方に反論する機会をうかがっている。

エ 「ゆきちゃん」は疲れるような運動は出来ればしたくないと思っているが、体力も根性もない自分を変えたいとも思っている。

オ 「朝子さん」は反抗的な「ゆきちゃん」を切り捨ててしまったように見えるが、本当は「ゆきちゃん」のこことを受け入れている。